

ソフト力で生産合理化

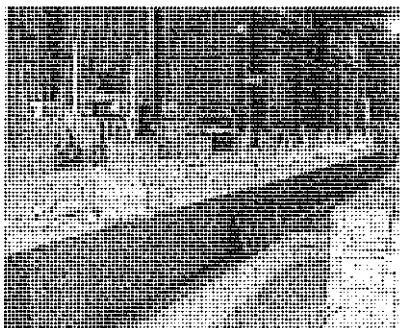
歩留まりなどを最適化

木工機械

ミカエル・ヴァイニツヒ・シャパンは2×4工場向けに生産効率の高いクロスカッター「オペティカッター」を提案している。ポイントになるのは最適木取りプログラムで、▽欠点を取り除く▽数多くの必要寸法を、必要数だけカットする——を同時にクリアし、かつ最高の歩留まりになるよう最適化する。

特に、2×4部材加工では、物件ごとに力ツトリストを作成し、長尺材から優先的に力

細かく仕分けされるヴァイニツヒのクロスカッター



ツトするよう工夫。

実際の作業は、①欠点位置をマーキング②材料長さとマーキング位置を自動読み取り↓最適な力ツト寸法を割り出す。

これにより、寸法や

納入先、グレーバックアップする。

ド、部材ごとに同システムはグレー選別。「稼働率50〜60%、平均歩留まり95・2%だった工場が、オペティカッターの導入で、稼働率60〜70%と10%改善し、能になる。

歩留まりも96〜97%へ向上」(同社)。

一方、注目されるのは、スミーズにするほか、仕上げが高速になってプレスまでの流れをスムーズにするほか、きめ細かい選別による高品質な集成材生産が可能になる。さらに、搬送システム。木材用「ウッドアイ」をラインに組み込み、高速化する集成材の合理化にも貢献でき

み、高速化する集成材の合理化にも貢献でき

工場での高品質生産を